

韓国環境部プレスリリース 2020年2月11日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 178-183 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1311665&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゴン）上西面（サンソミョン）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゴン）長南面（チャンナムミョン）および中面（チュンミョン）で発見されたいのしし死体 6 個体で ASF ウイルスが検出されたと 2 月 11 日明らかにした。

○華川郡上西面で発見された死体 2 個体と漣川郡長南面で発見された死体 2 個体、漣川郡中面で発見された死体 2 個体は 2 月 10 日環境部捜索チームが近隣山の斜面を捜索している間発見した。

○華川郡と漣川郡は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は 2 月 11 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡では 57 件、漣川郡では 56 件の野生いのしし ASF が確診よく全国的には 183 件になった。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の死体は全部広域フェンス内で発見された。この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性が高く、捜索を徹底している”と話した。

以上